

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人黒木学園 認定こども園徳力団地幼稚園

1. 本園の教育目標

一人一人に寄り添いながら 豊かな遊びを通して 自分らしく生きる力の基礎を育む

～夢中になれること・夢中になれるばしょ・夢中になれるじかん～

「遊びの中からすべてを学ぶ」という創立者の理念を引き継ぎ、幼児一人一人の個性と思いを大切に、たくましく生きる力の基礎を育む保育の創造を目指す。

2. 本年度の重点目標

- ①幼児の健康と安全を守るために必要な知識と対策を職員間で共有、実践する
- ②幼児理解のため記録をとることを、活動展開へのきっかけとしたり、保護者との連携につなげたりする
- ③幼児の興味・関心に添った環境構成、保育教材の研究に努める

3. 評価項目の取組と成果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

自己評価結果の総括表

重点的に取り組む目標 ①	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	意見・説明
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		
幼児の健康と安全を守るための実践	健康で安全な園生活の充実に努める	4	健康で安全な生活に必要なことを幼児にわかりやすく伝えるために視聴覚教材を作成する	3.7	4	健康で過ごすために、栄養や運動、清潔にすることなどが必要であるということを幼児が理解するようになった	3.7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の園生活が3年目となり、保育者、保護者ともに幼児の体調管理を綿密に行う習慣が出来た。よって体調の変化に気付いて迅速に対応することが出来ていた。 ・幼児も健康や衛生について大切なことが年齢に応じて理解出来るようになり、手洗い・消毒・マスクの着脱が進んで行えるようになった。 ・健康、安全面の情報を、全職員で共有したり行政と連携を取ったりして、感染拡大防止や危機管理に努めた。
		3	感染症への対策を常に講じ、新しい情報を収集し職員間で共通理解をする		3	最新の感染情報を把握し、行政と連携を図りながら感染対策等を行うことを職員間で共通理解をした			
		2	手洗い・消毒・マスク着用の必要性を、幼児に定期的に伝える		2	進んで手洗い・消毒をすることが習慣となり、3才以上の幼児はマスクの着脱が身についた			
		1	日々丁寧に視診を行い、幼児の健康状態を把握する		1	丁寧な視診を通して、幼児の体調変化に気づき、迅速な対応が出来るようになった			

重点的に取り組む目標 ②	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	意見・説明
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		
幼児理解のための記録と保護者との連携	幼児理解のための実効性のある記録の在り方を考える	4	記録を、保護者に伝えるポートフォリオとして作成する	3.7	4	ポートフォリオを保護者に定期的に配信し、幼児の姿を共有することで連携につながった	3.7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の様子を撮影し、振り返ることで、気づきや保育者同士での共有に活かし、幼児理解を深めるように努めた。 ・幼児の様子を写真つきのたよりで定期的に、またタイムリーに伝えることで保護者との信頼関係が築けるようになった。 ・幼児理解のため、また保護者へ幼児の成長の姿をよりわかりやすく伝えるために始めたポートフォリオも、写真つきのたよりや作品、行事のしおりなど、バラエティに富んだ内容となり園と家庭をつなぐ大切なツールとなってきた。
		3	写真やメモをもとに、幼児の興味・関心があることや周りとの関りを見取り、記録をする		3	写真つきの記録を見て振り返ることで、幼児の個性や成長の姿に気付くようになった			
		2	幼児の生活の様子の写真を撮ったり、メモを書いたりする		2	保育者同士で、写真を見たり出来事を伝え合ったりして幼児の様子を共有するようになった			
		1	幼児の姿を肯定的に受け止め、理解するように努める		1	幼児が喜んで登園し、園で安心して過ごせるようになった			

重点的に取り組む目標 ③	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	意見・説明
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		
幼児の興味・関心に即した環境作り	幼児が遊びに主体的に取り組む室内環境の構成を考える	4	幼児自身で場を作ったり準備したり出来るように材料・用具等を分類したり扱いやすいように置いたりする	3.3	4	環境として置かれたものからイメージを広げ、自分たちで遊びを作りだしたり発展させたりするようになった	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の興味、関心、ニーズに応じながら、保育者がねらいを持って、季節や幼児の発達に即した環境を設定するように努めた。幼児の「やりたい」「試したい」思いと環境が合致すると、自分で選んだり考えたりして遊びを繰り返す姿が見られるようになった。 ・幼児の様子を予想して環境を準備したり、要求があった際にすぐに提供したりすることが今後も課題である。 ・保育室内の整理整頓をし、幼児が使いやすい遊具、教材の配置を心掛けたい。
		3	幼児が必要と感じた時にタイミングよく遊具・用具・素材等を提示する		3	幼児が積極的に環境に関わり、繰り返し遊んだり集中して遊んだりするようになった			
		2	幼児の興味・関心や育ちに応じた遊具・用具・素材を提供する		2	幼児が環境として置いてあるものに興味を示し、触れたり試したりするようになった			
		1	幼児が安心して過ごせるような保育室の環境を準備する		1	幼児は環境として置いてあるもので遊び、安心して過ごしていた			

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
① 身体を動かす楽しさを味わう保育の展開	世界保健機構（WHO）や幼児期運動指針（文部科学省）でも「幼児は毎日60分以上、身体を動かすことが奨励されている」ということを全職員が理解し、楽しく身体を動かす時間や環境を確保する。園庭、ホール等での運動遊びを工夫し、園の施設だけでなく、地域の公園、グラウンド、遠足等での体験の充実を図る。
② 対話や協力体制を大切にし、風通しの良い同僚性を育む	認定こども園に移行し数年が経ち、補助職員が増えたり、新採職員を迎えたりしている今、改めて園の理念を共通理解し、保育の方向性を共有する。小さなことでも報告・連絡・相談を行い職員間で考え支え合ったり、寛容性を持って一人一人の良いところを認め合ったりすることを、

5. 実施内容

No.	内容	期日
1	第1回 学校関係者評価委員会 ・委員紹介 ・本年度重点目標の説明	令和4年6月3日（金） 13:00～14:00
2	第2回 学校関係者評価委員会 ・運動会参観、講評 ・保護者アンケート実施	令和4年10月8日（土） 9:00～12:00 10月中旬
3	第3回 学校関係者評価委員会 ・生活発表会参観、講評 ・自己点検、自己評価実施	令和5年2月18日（土） 9:00～12:00 3月上旬
5	第4回 学校関係者評価委員会 ・今年度考察、評価 ・令和5年度の重点目標設定	令和5年3月16日（木） 13:00～14:00

6. 学校関係者評価委員会の評価

今年度も新型コロナウイルス感染症の収束が不安視される中、本園も一時期、休園や部分休園となり、子どもたちの健康と安全の確保には大変な努力が必要であったことと推察する。乳幼児への影響も大きく、コロナ禍3年目の中で子どもたちへの日々の保育、多様な経験の確保に努めたことは大変有難いことだと思う。

認定こども園へ移行して4年が経ち、0歳から5歳までの円滑な教育推進の形が見えつつあるのではないかと推察する。

園は幼稚園教育から成り立ちであり、乳児保育の概念やスキルの定着にはまだ尚、研鑽が必要と考えられるが、引き続き接続の円滑さを目指して保育を推進されればと思う。

次年度も子どもたちの健康に留意しながら、創立者の理念でもある「遊びの中で子どもが育つ」ということに真摯に取り組んでほしい。

学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員

委員会実施日

令和 5年 3月 31日